

春季彼岸会 — 二河白道 —

春分の日を中日として前後三日間、計七日間を彼岸といひます。彼岸とは、インドのサンスクリット語で、パーラミター（波羅蜜多）の訳です。むこう岸、彼の岸（彼岸）というのは仏の悟りの世界、こちらの岸此岸とは迷いの世界、私たちの生きている世界。その間には煩惱の水の流れる大河があると、いわれています。その此岸から彼岸へ渡る道、極楽浄土に生まれる道を、中国の高僧である善導大師が、二河白道（にがびやくどう）という喩えで書かれています。今回の会報では、二河白道についてお話しさせていただきます、浄土真宗における彼岸の心構えを考へる機会にさせていただきますだけばと思ひます。

ある旅人が西に向かつて進んで行くと、何も無い荒野で火と水の河に出会います。



南側に火の河。東側に水の河。河の幅は百歩（五、六十メートル）ほどで、さほど大きくありませんが、底がありません。ただ橋のように一筋の白い道はあるのですが、その道は一人渡れるほどの細い道で、火と水が両方から押し寄せてきています。後ろ側からは賊の群れや、悪獣が自分を殺そうと迫つてきています。前に進んでも、後ろに下がつても、そのまま止まつていても死を免れない状況の中で、白い道を渡ろうとすると、東からその道を進め」という声。西から「こちらに来てください。あなたをずっと守り続けます。」という

声がするのです。その声に従い、その道を渡ると、難をのがれ善き友と遇うことができた。という喩え話です。

この旅人は、私達自身の姿を現されています。此岸と彼岸の間の火の河、水の河は、私たちの苦しみの原因となる欲望や、思い通りにならない時の怒りの心を指しています。だから底がないのです。地位や名譽や財産に振り回され、野心に燃えている心は、盗賊や悪獣として渦巻いています。そんな私達にお釈迦様は、此岸からその道をすすめ」と励ましてくださり、彼岸から阿弥陀様が「こちらに来てください。あなたを救いとおつてあげます。」と呼び掛けてくださっています。そして、目の前の白道こそ、南無阿弥陀仏のお念仏救いの道なのです。

私達人間は、じつと何もしなくても必ず命を終えていきます。死後の道は、どのような道だと思われまするか。真つ暗の長いトンネルの中で右往左往している者にとっては、

何よりも求められるのが灯火です。二河白道の図には、欲望や怒りの心を無くすことができない私達は、その河を渡って極楽浄土へ行くことができないことが表され、極楽浄土へ行くのは白道しかないと示してくださいます。白道こそが、灯火になるのです。

浄土真宗の彼岸会は、亡き方がのこしてくださった仏縁の中で、彼岸へ渡る為に自らの行いを省みる期間を彼岸としています。私達忙しい日常から少し距離を置き、自らの心を帰りみる時間をご自身の為にとつてあげることが大事です。日々の生活の中の不快に思うことは、実は自分の心の持ち方を見直すことによつて改善していくことが多いと思います。仏教は心の浄化の実践にあります。心の疲れを癒すためにも、日本仏教の大きな行事である春季彼岸会を是非そのような機会に利用していただきたいと思ひます。

台掌



春季彼岸会

平成二十八年三月十七日(木)春らしい陽気の中、太陽の塔桜ヶ丘でも春季彼岸会が厳修されました。当日は、多くのご参集の会員様と共に当会所属の僧侶お二人の先導のもと肅々と執り行われました。

「ご法話では、私たちは仏法に出会うことによつてお浄土の阿弥陀様に導かれ、この此岸から彼岸・真実の世界をめざして生きる人生。」 依法により人間的な成長や学びをいただく人生を歩ませていただく。その期間が彼岸です。」とお話しくださり彼岸会法要にご参集の会員様と彼岸会の本来の意味について考えさせられました。日常の忙しさに追われ生活を送る中、ご先祖様、亡き父母の思いや導きに耳を傾け、感謝の心で手を合わすということは、

何より尊い時間ではないでしょうか。
 “春はまた花見月
 見にひま入れて、
 仏の前に参る人な
 し”という言葉も聞
 きますが、それで



はひと時の幸せを追いかけるだけの人生になってしまいます。一瞬の樂はその後の苦につながります。私たちは、生きていく限り死後を経験することができません。だから本当に西方極楽浄土は、あるのかと疑いの心をもたれる方も少なくないでしょう。しかし、何年もご先祖にお経にあわせてあげてない。「夏のお盆もお彼岸もお墓参りができなかった。」となつたら多くの方は、なんだか申し訳ないような気持ちになると思ひます。また、お彼岸にご先祖のお墓に手を合わせる時、少しすがすがしい気分になります。その気持ちに気付いた時、はじめて手を合わせるこの大切さを感じることができると思ひます。

遠く昔から、東は万物の生起するところ西は万物の終歸するところといわれています。沈む夕日に手を合わせ亡き方々のいらつしやる西方極楽浄土に思ひを馳せるそれがお彼岸の尊いご縁なのです。

台掌



正念の徳・得コーナー

トク トク

※太陽の会僧侶 玉那覇正念の新コーナー
▽仏教は何の役に立つのか？

この世に生まれて、今ここに生きている。いや生まれ生きねばならないという事実の中で生ずさまさまな問題。仏教はその問題の根源を問いき方を学ぶ道、仏教は仏道なのです。人生は苦しみであること、この中身には、人生の4つの仕組みがあると考えます。

①生きることはままならない

何一つ自分の思い通りにならないにもかかわらず、すべてを思い通りにしないと自分の気がすまない。

②生きることは実に難しい

周到な計画や、いくら努力してもその成果が必ずしも報われない。

③生きるというのは煩わしいもの

何か事に当たろうとすると、反対の人が現れたりして、自分の考え通りにならない。

④今生きている命には限りがある

いつまでも生きていることはできず、必ずいつか「死」がやってくる。

私はこの四つの仕組みについて実感していません。

努力は成果を約束しない、しかし努力しなければ何もはじまらない。「味わい深い言葉だ」と思います。

努力は成果を期待しますが、仏教の説く精進というのは、成果を期待して努めるのではなく、務めることにこそ尊さがあるという世界です

太陽の会僧侶 正念

仏教由来の言葉「迷惑」

「他人様に迷惑をかけるな」

「はた迷惑な話だ」

というように使われる「迷惑」は、他人のことでわずらわしく、いやな目にあることをさします。

これは、文字どおり「迷い」「惑う」

からです。つまり、他人から受けた被害が、それほど大げさなことではなく、それでもそのまま放っておくには、許せない。精神的苦痛を受けて、抗議しようか、それともじつと我慢しようかと心の中であれこれと思わずらい迷い悩む、そのような状態をいいます。

しかし、もともと仏教では、仏の教えがわかりにくくて思い迷ったり、道理に暗く理解に苦しむ状態を「迷惑」といいました。自分自身が困り惑うありさまでしたが、いつしか、他人への加害を意味し、被害者の受ける言葉となりました。「迷惑」は、だれにもかけずに過ごしたいものです。

太陽の会 桜まつり

平成二十八年四月

二・三日に太陽の塔桜ヶ丘で桜まつりが開催されました。

当日は、桜の花が咲き誇る中、郷土芸能の神楽を次世代の継承者である子供たちが力



いっぱい演じてくれました。また、翌日のメインイベントには、CMやイベントで活躍されているタレントさんが、強烈な個性で会場の来場者様を魅了されました。出店したのは、屋台グルメ村やカイロプラクティック、人気占い師のコーナー、終活セミナーと盛り沢山で開催されました。ご来場いた

いただきました会員様誠にありがとうございました。



これで安心！終活を今日から始める方法

皆さまこんにちは。エンディングノート普及協会代表・日本終活サポート協会理事の赤川なおみです。太陽の会では、終活セミナーと毎月1回の終活井戸端会議でお世話になっております。

この度、会報内のコーナーを持たせていただくことになりました。こちらでは、皆さまが毎日元気に楽しく、悩みなく暮らしていただけるための情報をお伝えしたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

○協会のご紹介

私たちの協会では終活専門家として、終活に関するお悩み、例えばお墓のことや葬儀のこと、家や土地のことなど様々です

が、それらのお悩みを解決するお手伝いをしております。その解決の手引きとしてエンディングノートの活用や、終活セミナーなどの講演活動を全国で行っております。

○終活って何でしょう？

近頃テレビでも雑誌でも「終活」という言葉をよく聞くようになりました。各地で終活フェアや様々な相談会が開催されていますが、実際には「終活って何？」と思いませんか？メディアでも「自分で葬儀を決める方法」とか「お墓の最新事情」相統税対策」ばかりがクローズアップされていますが、本当に気になっているのは、それだけでしょうか？そして、本当の意味での「終活」とは何でしょう？

○終活始めの第一歩

これから会報では、毎回今日から始める「終活」についてお伝えしてまいります。第一回目は「始めの第一歩」としてこちらを始めてみましょう。

まずは「もしも！」の時の緊急連絡先を紙に

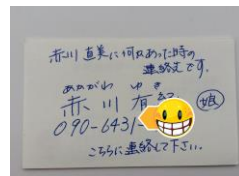
書いて携帯する」です。もしも事故にあった倒れたなど、周りに知り合いがない場合でもすぐに連絡がつくように「この人に連絡してください！」という、身内

やお友だちのお名前と

携帯電話の番号を書いて

いつも持っていてください。

もし「誰も書ける人がいない」という場合は、お早めに協会にご相談くださいね。



宗教法人太陽の会 福山事務局からの便り便 平成28年度5月～8月の予定

○親鸞聖人降誕会法要及び合同供養祭

開催日 5月21日(土) 10時より

○合同供養祭及び勉強会

開催日 6月18日(土) 10時より

○孟蘭盆会

開催日 7月15日(金) 10時より

○孟蘭盆会

開催日 8月15日(月) 10時より